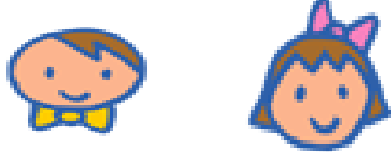
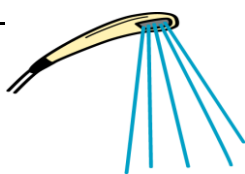




		手術前日(入院) /	手術 当日 /
観察		状況に応じて、体温、脈拍、血圧を測定します	手術後は痛み、出血、創部離解の有無、嘔気 等の観察を行います 手術後の苦痛などあれば我慢せずお知らせください ちょっとした変化でも医師、看護師にお知らせください
		自由にお過ごしください 走ったりベッド上で飛び上がって遊ぶのはやめましょう	回復の具合に合わせて動けますが、なるべく安静にしましょう 手術後の初回のトイレは看護師が付き添います
食事		通常通りの食事が食べられます ミルクが飲めます	手術時間、年齢によって術前食事制限が異なります 【1歳未満】 手術時間が午前中：3時以降食事はやめてください。7時まで飲水できます 手術時間が12～15時：6時以降食事はやめてください。9時まで飲水できます 手術時間が15時以降：9時以降食事はやめてください。12時まで飲水できます ※帰室3時間後、お腹の動きを確認してから、ミルクが飲めます (医師に確認後、細口哺乳器またはシリコン製のスプーン使用。 スプーンは奥に入れないようにしましょう。)
		 	【1歳以上】 手術時間が午前中：前日21時以降食事はやめてください。7時まで飲水できます 手術時間が12～15時：前日21時以降食事はやめてください。9時まで飲水できます 手術時間が15時以降：8時以降食事はやめてください。12時まで飲水できます ※飲水は水、茶、スポーツドリンクのみ。それ以降は飲水・食事はやめてください
清潔		手術の準備として入浴、洗髪をしましょう	お風呂には入れません
薬物療法	点滴		手術室より点滴が開始されます 帰室後、抗生剤の点滴を行います 
	内服薬	常備薬を看護師が確認します (手術日に確認してからお知らせします)	
	臨時役		
説明・指導		・入院生活上の留意点の説明があります ・入院診療計画書等の渡ししより看護師から退院までの経過、手術についての説明があります ・手術後の抑制方法(必要時)、摂取可能な食事内容、食事摂取方法(細口哺乳器、シリコン製のスプーン)、歯磨きについての説明があります	手術は : 頃の予定です 手術室に行く前にトイレ、手洗い、着替えを済ませてください。手術室までは保護者の方と一緒に歩いて又は抱っこでいきます。帰りはベッドで帰ってきます 薬剤師からくすりについての説明があります(入院日または手術日に行います)
		・ベッドの周りを片付けましょう。ベッド柵は乗り降りしない側は常に上げておき、乗り降りする側は必要時上げて使用しましょう。赤ちゃん用ベッド使用時は、常に柵は上げておきましょう。ベッドの高さは一番低くしましょう。病棟内を走らない、ベッド上で飛び上がって遊ばないようにしましょう。以上のことが守れているか看護師が確認します	
目標	入院中の予定がわかる		創部安静のため抑制具を用いて創部安静が守ることができる(必要時)
	手術後に注意することがわかる		術後、細口哺乳器またはシリコン製スプーンで水分又はミルクが摂れる 痛み、出血、吐き気など身体に変化があった時は医療者に言うことができる
	ベッドから落ちない、転ばないように注意できる		

症状・経過によってはスケジュール通りにならない場合があります。

	手術後1日目 /	手術後2日目 /	手術後3・4日目 / /	手術後5・6日目 / /	手術後7日目 / (退院)
観察	自由に動けますが走ったり、ベッド上で飛び上がって遊ぶのはやめましょう				
	抱っこもできます(乳幼児) 				
食事	朝から流動食がでます	朝から3分粥がでます	朝から5分粥がでます	朝から7分粥がでます (離乳食の場合は食べていた形態)	
	脱水予防のために水分を1日に500mL以上摂取しましょう スプーン使用時はシリコン製のものを使い、スプーンは奥に入れないようにしましょう				
清潔	体を拭くことができます	沐浴、シャワー、シャンプー、洗面(創部以外)ができます			
薬物療法	点滴	補液の点滴があります(食事、水分摂取良好であれば術後2日目以降に点滴の針を抜きます)			
	内服薬	鎮痛薬を毎食前に飲みましょう(朝、看護師がお渡しします)			
	臨時薬	痛み、吐気、発熱時は薬を使用します			
説明・指導				退院後の生活について用紙を用いて説明します(6日目) 	退院日に次回の外来について説明し予約券をお渡しします(必要時内服薬をお渡しします)
目標	歯科にかかり、適切な方法で歯磨きができる(歯磨きが困難な場合はうがいのみで良いです。その場合は食後5分以内のうがいが効果的です)			退院後の生活で注意することが分かり、傷が開かないように生活できる	
	食事形態の制限を守り、細口哺乳器またはシリコン製スプーンで食事が摂れる				

症状・経過によってはスケジュール通りにならない場合があります。